

荒砥沢地すべりの今後の対策に関する検討会 第1回検討会

1 日時：平成26年10月3日（金）15：00～17：00

2 場所：宮城県栗原市 エポカ

3 出席委員

井良沢委員、佐藤委員、大丸委員、千葉委員、宮城委員（座長）、飯田委員（代理）

4 議事

（1）座長選出について

（2）荒砥沢地すべり地の推移と評価

5 主な検討結果・報告及び委員の発言

（1）座長選出について

宮城委員が座長に選出された。

（2）荒砥沢地すべり地の推移と評価

（i）対策工効果の評価について

・対策が未施工の箇所は×評価でなく－に変更すべき。施工して効果が無かったということではない。

①冠頭部拡大亀裂

・冠頭部の排土工の評価が○（効果を発揮）になっているが、東北地方太平洋沖地震の本震でも大崩壊が発生していないので◎（効果大）に評価を変えるべきである。

（委員の総意）

②末端ブロック

・末端部に発生した亀裂は盛土の変形によりできたもので、鋼管杭はかなり効いているのではないか。

③末端部山腹～湛水池

・湛水池はある程度長期間の現象（豪雨時の水位変動等）をみて判断すべきではないか。

・山腹については、ガリが発生しているので対策が必要。土砂流出はダムに直接流入するので、どこでどう浸食しているのか、丁寧に調べて対策を検討する必要あり。

・中長期的に集水井からの排水では、沈殿土砂等の影響で内径が小さくなって機能低下等があり継続的に機能を保証できるかが課題。

④ヒアヒクラ沢流路沿い

- ・現場の状況より山腹工から流路工に工法変更し、景観を損ねることなく機能も発揮していることで、順応的な対応として評価されるべきである。
- ・この対応は、治山技術者に対する教育的効果としても非常に重要である。

(ii) 地すべり全体について

- ・東北地方太平洋沖地震時に滑落崖が崩落した際に、崩落土砂の到達点は今後の対策において重要である。
- ・雲仙では溶岩の落石が10年程経過後に急に活発化したタイムラグがあるので、長期的にみると、今後落石が活発化する可能性があるのではないかな。
- ・緑化工の評価を場所、傾斜、湿潤等や、木質チップ、植生基材、自然侵入等、地形、工法毎に総合評価してみたら良いのではないかな。
- ・湛水地について、土砂が堆積すると、これまで土砂受け・一旦水をストップする効果が減少し、湛水地末端の洗掘がおこるのではないかな。
- ・軽石凝灰岩がすべて浸食に弱い訳ではなく、細粒な凝灰岩の層が浸食に弱いので、良く岩質を見定めて効果的な対策をとるべき。
- ・UAVを経年的に実施することにより、変動の比較を捉えられる可能性が高く、非常に有効な方法ではないかな。
- ・栗駒山麓ジオパーク構想において非常に重要な場所である荒砥沢地すべり地について、安全で安心かつ景観の保全を行いながら、防災教育などへの活用が少しでも可能になる事を期待している。

以上